

久留女木の休耕地活用 「棚田の恵」米 28日から販売

静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生らでつくる「引佐耕作隊」は28日から、北区引佐町久留女木地区の棚田で収穫した米「久留女木 棚田の恵」を同大生協などで販売する。

静岡文化芸術大
「引佐耕作隊」

容器に茶缶使用

船戸修一准教授が受け持つ授業の一環で、耕作放棄地の再生や棚田の価値を広く伝えることが目的。2016年から休耕地で米作りを始め、販売は3回目。今回は静岡らしさを出し、消費後も活用してもらおうと容器に茶缶を使用した。履修する学生5人に加え、卒業生や有志らが、500平方メートルの棚田で田植えや稲刈りに取り組んだ。猛暑や台風の影響で水量の管理などが難航したが、11月に約160キロを収穫した。

「缶などのデザインは卒業生や大学院生が手掛け、棚田の役割や効果をそれぞれ紹介した4種類のパッケージを用意した。デザイン学部1年の松浦あづみさん(20)は、

「多くの人に棚田の役割や耕作放棄地について知ってもらえれば」と話した。船戸准教授は「米作りを通じて集落全体の力になれるよう活動が続けていきたい」と語った。売上金は活動資金などに充てる。

棚田の恵は300円入り500円(税込み)。約480個販売する。(浜松総局・寺田将人)



引佐耕作隊が久留女木の棚田で収穫し、28日に発売する「棚田の恵」
＝浜松市中区の静岡文化芸術大